

平成29年11月16日

保護者各位

江戸川学園取手小学校
校長 若林 富男

校長懇談会の概要報告（お知らせ）

10月25・27日の校長懇談会には、ご多用のところ、多数の保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。感想アンケートの声から懇談会の趣旨の対話交流が、一歩進んだことを実感いたしました。欠席の方もありましたので、校長懇談会の概要を、お知らせいたします。

◇懇談会の趣旨 同じ平面での校長や教員との対話交流を図る。異学年保護者との対話交流を図る。

I. 校長より

1. 基礎基本の力をつける

- ・基礎基本の力をつけることに重点を置く。学齢で身につけること（教科書の内容を十分理解し、知識や技能を身につける）を徹底していく。深く熟すほど理解するということが、友達や先生に理解したことを説明できるということ。しっかりした「基礎基本」が「応用力」を生むことになる。
- ・主体的で対話的な深い学び、いわゆるアクティブラーニングは、開校当時から実施している。子どもが主役の双方向の学習を展開している。
- ・習慣というのは、無意識のうちに行動できるということ。幼少期に好ましい生活習慣と学習習慣をつけていく。「7つの習慣」を身につける。

2. 中学校への進学

◎教育理念・教育方針・校訓・教育実践等すべて同じ

- ・原則として全員が江戸川学園取手中・高等学校へ進学する。
- ・6年生の6月に正式な進学説明会（コース選択とクラス編成、特待生制度など）がある。
- ・コース選抜（東大J、医科J、難関大J）の基準として「志望理由書」「4～6年生の定期試験の総合成績」「コース選抜試験」（6年生の1月中旬）の3点が挙げられている。
- ・基礎学力の定着と向上を図る。＊フォローアップ体制にご協力を。6年生まで毎年積み上げる。
- ・他人との比較ではなく、まずは自分のすべきことをきちんと積み重ねることが大事。アフタースクールの中の「アドバンスト国語・算数・理科」等の発展講座を利用する。

3. 教育理念「心豊かなリーダーの育成」や教育の特色

(1) リーダーシップ教育&心の教育

- ・リーダーインミー オープンスクールや紫峰祭の学校行事をはじめ毎日がリーダーシップデイ。一人ひとりがリーダーで、学校代表である。大小のリーダー宣言で目標を立て取り組んでいる。
- ・7つの習慣はご家庭内でも実践を 7つの合言葉「自分でえらぶ」「おわりからかかんがえる」「だいじなことから始める」・・・
- ・キーワードの信用貯金、信頼貯金、一時停止ボタン、win-winの関係など、学校と家庭で共有して進めていく。



- ・宮澤章二の言葉 「**「ころろ」は だれにも見えないけれど 「ころろづかい」は見える**
「思い」は 見えないけれど 「思いやり」は だれにでも見える

＊「思い遣り」「心遣い」「気遣い」の『遣る』『遣う』は相手の気持ちがわかるという意味

(2) 英語教育

- ・ブリティッシュヒルズ親子英語合宿は、4年生より児童のみの参加を可としている。
＊今夏は親子52名が参加、うち4/5年生の単独参加は10名であった。

- ・オーストラリア語学研修は、4/5年生児童22名で第1回目実施。次年度も夏休み前に出発予定。
- ・「Apple Banana Cherry」の習熟度別経験別の学習を展開。英語はグローバル社会では不可欠。
＊5年生から英語の学習は週3時間になり、文法も学んでいる。書くことも必要となる。

(2) 国語教育

- ・母語教育「思考力」の源となる。国語（日本語）力が確かでない、英語の習得も不十分になる。
- ・絵だよりは手紙作文（返事を書くことが大事）、作文の力がつく。書くことは考えること。
- ・コミュニケーション力をつける。家庭内でも「一往復半のコミュニケーション」を心がける。
- ・プレゼンテーション力をつける必要がある。＊紫峰祭の4/5年生の学年発表がよかった。

(3) ICT教育 ICT『も』活用できる児童生徒の育成

- ・4年生から1人1台タブレット。「常に手元に本とタブレット」。＊プログラミングの出前授業も実施。

3. 平成30年度の宿泊学習<予定>

- ◆4年生のスキー教室（2泊3日）1月中旬
猪苗代町のホテル宿泊 箕輪スキー場
- ◆5年生の宿泊体験学習（2泊3日）6月上旬
猪苗代町のホテルを拠点に会津磐梯方面
- ◆6年生の修学旅行（3泊4日）10月下旬
金沢&加賀市のホテルを拠点に北陸飛騨方面

◇オーストラリア語学研修<異文化体験学習>
7月中下旬 4～6年生希望者対象
◇親子英語合宿研修 ブリティッシュヒルズ
8月下旬
1～6年生親子希望者対象 4～6年生単独可

◇教務部長より家庭学習のこと

- ・7つの習慣を踏まえ自学習（自分で計画を立て実行して振り返る Plan-Do-See）を推進する。
- ・時間の目安は「学年×15分」。宿題を優先し、音読、読書、絵だより、漢字帳に取り組む。
- ・英語の家庭学習はCDを聴き、まねをして発音する。テキストの内容を日本語で理解する。

II. グループトーク 家庭学習や生活の情報交換を中心に。（帰宅後の過ごし方、学校外の習い事など）

- ・グループごとの話題：家庭での英語学習、英検対策、宿題、習い事、ランドセルや制服のことなど

III. 校長より 連絡あれこれ

- 自家用車通学の方は、校門の一礼一時停止、車の窓あけ挨拶（児童確認）は定着してきた。引き続き構内徐行運転（時速10キロ以下）、速やかな下校をお願いしたい。＊学期はじめに朝の挨拶運動
- 通学マナーの向上を図りたい。学校ではHRや通学班会で繰り返し指導している。
＊改札口から自宅までは家庭教育の範疇 ＊少人数の児童の下校マナーが良くない。
- スクールバスやアフタースクールのシステム変更を確実に。自家用車への変更がされていないために確認を要しスクールバスの発車が5～6分遅れることがある。 ＊スクールバスは定刻発車をしたい
- 学校行事や授業日は欠席しないことがすべての基本。 ＊出欠席の統計は中高へも報告される
- 駐車場が足りないので、ローテーション制とし一部抽選を行う。今後も保護者用の臨時スクールバスを両駅から運行するので利用してほしい。

【感想より主なもの】

- ・学校の教育内容や近況を、具体的に聞くことができてよかった。（多数）
- ・学年以外の保護者と話すことができてよかった。上級生の保護者から教えていただいた。（多数）
- ・子どもが自ら考え、行動できるように、声かけをしていこうと思った。
- ・家庭教育の在り方や内容を改めて考えることができた。
- ・宿題の取り組みからも、個々のお子さんに自学習の差があることが分かった。
- ・7つの習慣の取り組みが家庭では不十分であった。

◆校長懇談会の開催アンケートの集計結果（人数） ◇曜日：平日（65） 土曜日午前（34）

◇時刻：午前（30） 午後（57） ◇時間：60分（14） 90分（62） 120分（15）